

平成 30 年度 「学生プロデュース」 実施結果報告書

1 プロジェクト名				
とどけよう!!みんなのこえ!! ～震災復興コンサート～ Vol.6 「 ^{まもる} 護」				
2 実施日程				
・ 児童合唱練習、震災ワークショップ (リビエールホール内レセプションホール、大学音楽棟リハーサルホール(K-201)にて) 9/22(土)、10/6(土)、10/14(日)、10/20(土)、10/28(日)				
・ 児童と保護者、学生で大阪市立阿倍野防災センターの見学 9/30(日)→台風接近に伴い中止				
・ 学生混声合唱練習 (大学音楽棟リハーサルホール(K-201)、K-101 にて) 10/4(木)、10/5(金)、10/11(木)、10/12(金)、10/18(木)、10/19(金)、10/25(木)、10/26(金)				
・ 学生オーケストラ練習 (大学音楽棟リハーサルホール(K-201)にて) 10/9(火)、10/16(火)、10/25(木)、10/30(火)				
・ 震災復興コンサート (大学音楽棟リハーサルホール(K-201)にて) 11/4(日) 14:00:開演				
3 実施内容				
震災復興コンサートの実施に向けて、運営メンバーによる準備を 6 月から行った。加えて、プロジェクトの参加者である柏原市の児童の合唱練習及び震災ワークショップ、学生による混声合唱とオーケストラの練習を 9 月から 10 月にかけて行った。				
震災復興コンサートは、1 部：混声合唱、震災ワークショップ(震災体験絵本『トミジの海』創作音楽付き朗読)、2 部：児童合唱、児童と学生による全体合唱、という演目で実施した。コンサート終了後、募金活動を行い、後日「一般社団法人クリエイト兵庫 iNG」へ寄付を行った。				
4 経費の使途				
事 項	数 量	単 価	合計金額	備 考
レセプションホール使用料・付帯設備使用料	3 日	6000	18,600	
用紙やひも等の文房具			28,745	程度
震災体験絵本『トミジの海』	1 冊	1620	2,551	送料、手数料込
チラシ	1500 部		6,420	
プログラム	250 部		45,480	
チラシ、写真・動画データ郵送代			10,550	
合 計			112,346	

5 プロジェクトの成果

本プロジェクトの目的として、以下の3点を設定した。

1. 震災復興コンサートを開催し、運営メンバーを筆頭としたプロジェクトの関係者が、東日本大震災をはじめとする全国各地の災害について再認することで、災害の記憶の風化を防ぎ、継続的な復興支援を行えるようなきっかけをつくる。
2. 震災復興コンサートの宣伝及び本番において募金活動を行い、被災地支援の団体に寄付をする。
3. 震災復興コンサートにおけるテーマを「^{まもる}護」として、“自分の身をどのように「まもる」のか、自分がどれだけ周りの「まもる」に支えられているのか、災害の記憶を風化させずに「まもる」にはどうすればいいのか”の3つの「まもる」を設定した。それに基づいて、大阪市立阿倍野防災センターの見学や、震災体験絵本『トミジの海』の創作音楽付きの朗読を企画し、プロジェクトの関係者が「まもる」という認識を高め、災害や復興支援について考えられるようにする。

上記の目的に対する成果2点を以下に示す。

1. テーマに基づいた活動の1つとして、大阪市立阿倍野防災センターを、参加者の児童とその保護者と共に見学することを企画したが、台風の接近により中止となった。その代わり、運営メンバーが事前に見学して学んだことを、ワークショップという形で児童に伝えた。具体的な内容としては、児童が通っている小学校校区のハザードマップの配布、出血や骨折の応急処置の体験である。ハンカチや新聞紙などの身近なものを使用した応急処置の説明を受けて、児童同士でお互いに練習し、保護者に対するアンケートでは、「震災と自分たちの生活を少し身近に感じるようになった。」などの回答があった。加えて、テーマに基づいたもう一つの活動である、震災体験絵本『トミジの海』の創作音楽付きの朗読では、児童の「怖かった。」や「迫力があった。」という感想や、アンケートでは「少し薄れていた震災に対する気持ちがよみがえってきた。」や「音加わること、その場の状況をより理解できて良かった。」などの回答があった。テーマに基づいた2つの活動によって、目的とする成果をあげることができた。
2. コンサートの宣伝として大学(サンクンガーデン)で行った募金活動と、コンサート終演後の募金活動で集まった23,553円の寄付金は、全て「一般社団法人クリエイティブ兵庫 iNG」へ寄付を行った。寄付金は、全国各地の被災地の復興支援に役立てていただく予定である。

その他の成果は以下の3点である。

1. 本プロジェクトを通して、運営メンバーも災害や復興支援について考え、テーマである「まもる」という認識を高めることができた。特に今年度は、大阪市立阿倍野防災センターの見学や、震災体験絵本『トミジの海』の創作音楽付きの朗読といった体験的な活動が多くあり、よりその認識を高めることができた。
2. 今年度は柏原市から39名の児童がプロジェクトの参加者として集まった。児童の保護者の方々も合唱練習を見学して下さり、地域の方々とのコミュニケーションを図る機会ができた。加えて、合唱の指導をしたり、ワークショップを実施したりする形で児童や保護者の方々に関わった経験は、将来教育現場に出た際に役立てることができると思う。
3. 児童合唱の募集において、柏原市教育委員会の方々や柏原市の小学校の先生方のご支援・ご指導を頂き、児童の安全面の配慮など、多くのことを学ばせていただいた。加えて、コンサートのチラシの作成や、児童の合唱練習において、大学の他学科の学生とも協力し、連携をとることができた。

今後の活動について

1. 参加者の児童と保護者の方々、コンサートにご来場くださった方々から、「これからも続けてほしい」とのご要望をいただいている。このプロジェクトを今後も続けることで、継続的な復興支援につなげることができるとともに、毎年異なるテーマに基づいた活動を通して、新たな視点で災害や復興支援について考えていくことができると考える。現在、来年度のプロジェクトを企画している。